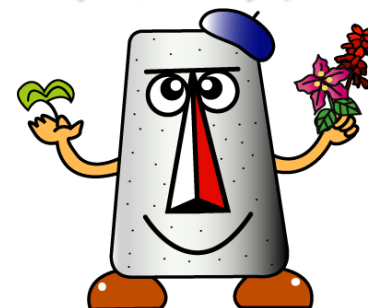


地域生活支援拠点等整備推進 モデル事業 実施報告書



宇部市イメージキャラクター
チョコクン

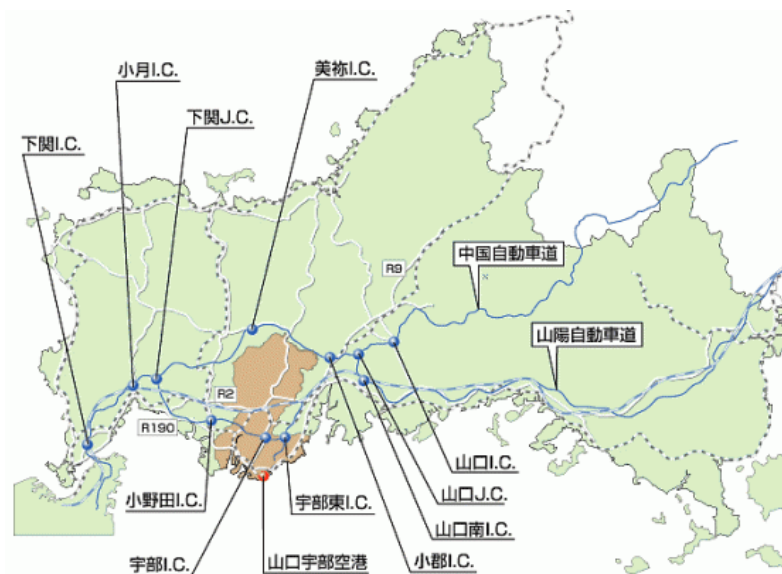


目次

○宇部市の紹介	2
○事業目的及び事業実施主体	3
○事業要旨	4
○地域生活支援拠点等の整備の類型	5
○事業内容	6
○必要な機能の具体的な実施内容	7
○事業実施の結果及び今後の課題・方針	9

宇部市の紹介

- ◆ 本州西端の山口県の南西部に位置し、鉄道は山陽本線及び宇部線が東西に走り、高速道路は山陽自動車道が市の中央部を横断し、海浜部には重要港湾である宇部港があり、山口宇部空港も市街地に近い位置にあるなど、陸海空それぞれの交通環境が整っています。
- ◆ 気候は、温暖で、雨が比較的少ない典型的な瀬戸内海式気候で、市中央部以北の丘陵地には豊かな自然があふれ、様々な動植物が生息しています。
- ◆ また、市内には、第三次救急医療機関である山口大学医学部附属病院をはじめ、数多くの医療施設が立地するとともに、他市と比較して市民一人当たりの病床数や医師等の医療関係資格者も多く、医療環境が充実しています。



事業の目的及び事業実施主体

- 事業の目的

障害者の親亡き後などを見据え、親元からの自立と1人暮らしの支援、緊急時の対応など、障害者が地域で安心して暮らせるよう、宇部市の資源を活用した「障害者の地域生活支援拠点」の仕組みを検討することを目的としている。

- 事業実施主体

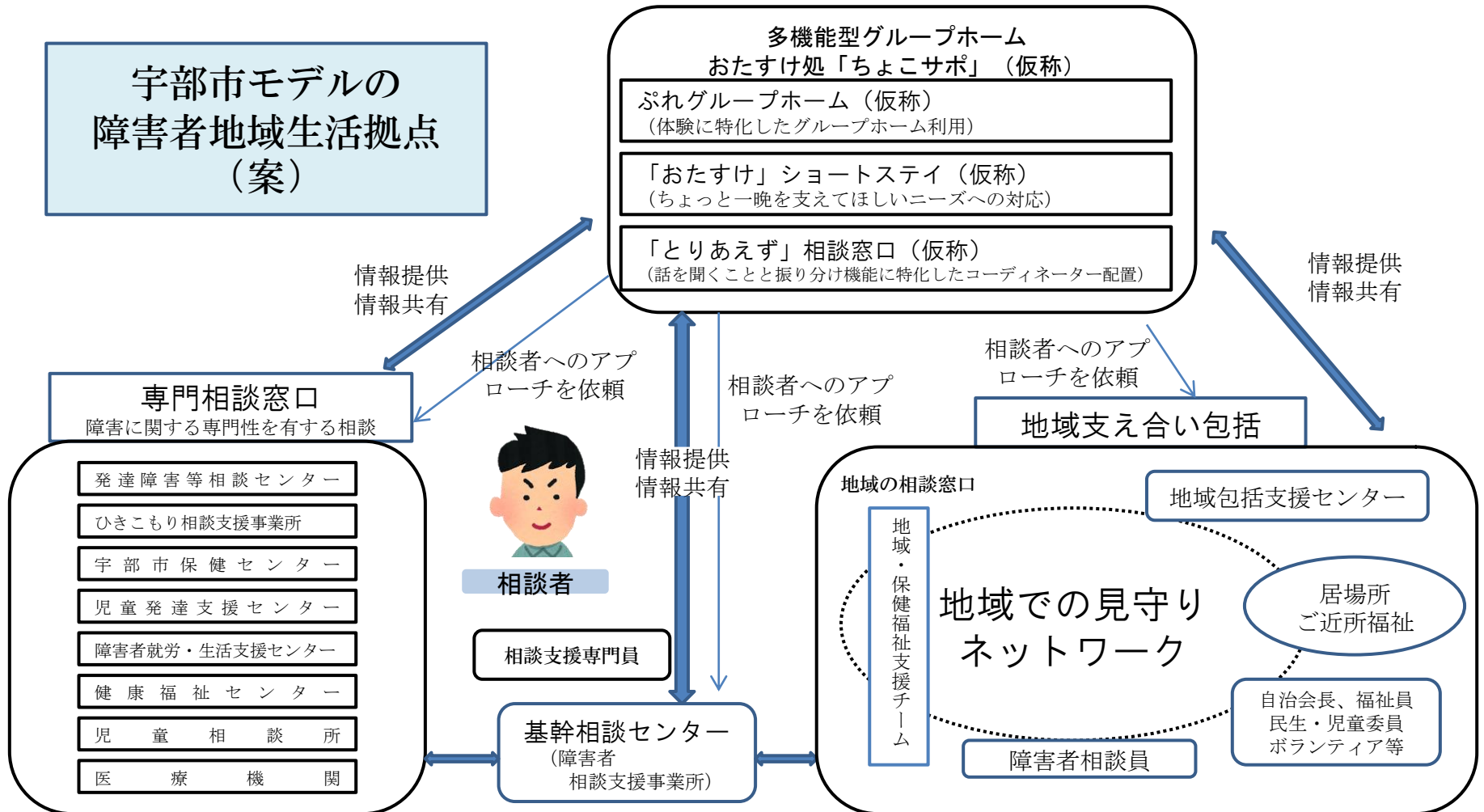
社会福祉法人 南風荘

事業要旨

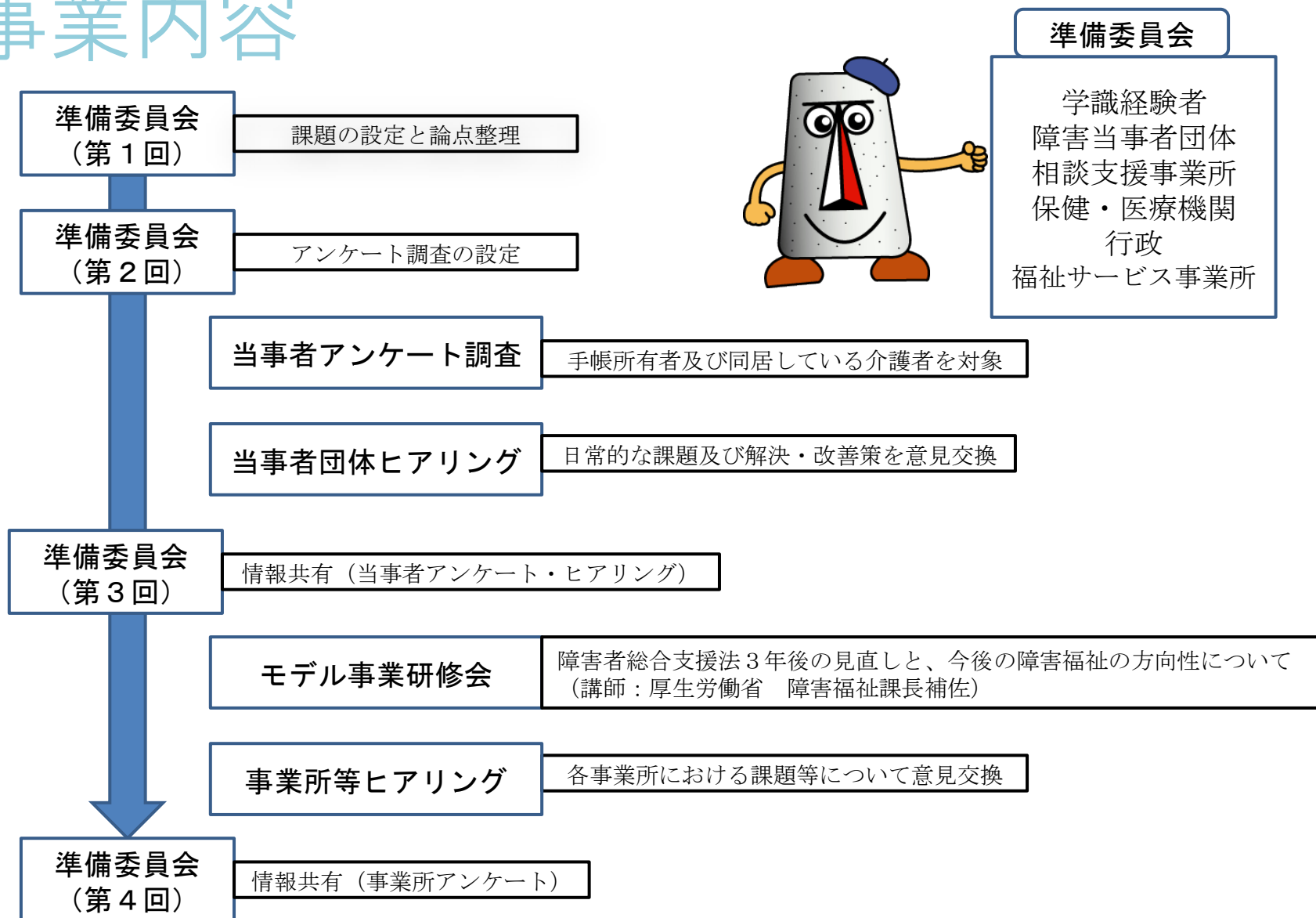
障害者等の実態とニーズについてアンケート調査を実施し、関係機関・団体等からのヒアリングを行うことで現状と課題を把握するとともに、すでに多くの障害福祉サービス事業所や専門相談窓口のあるなかで、支援のネットワークの隙間を埋めるための機能を1つの拠点に併せ持ち、既存のサービス等につなぐ役割を担うことによる、「宇部モデル」の支援拠点整備の提案を行うことを目的としている。

地域生活支援拠点等の整備の類型

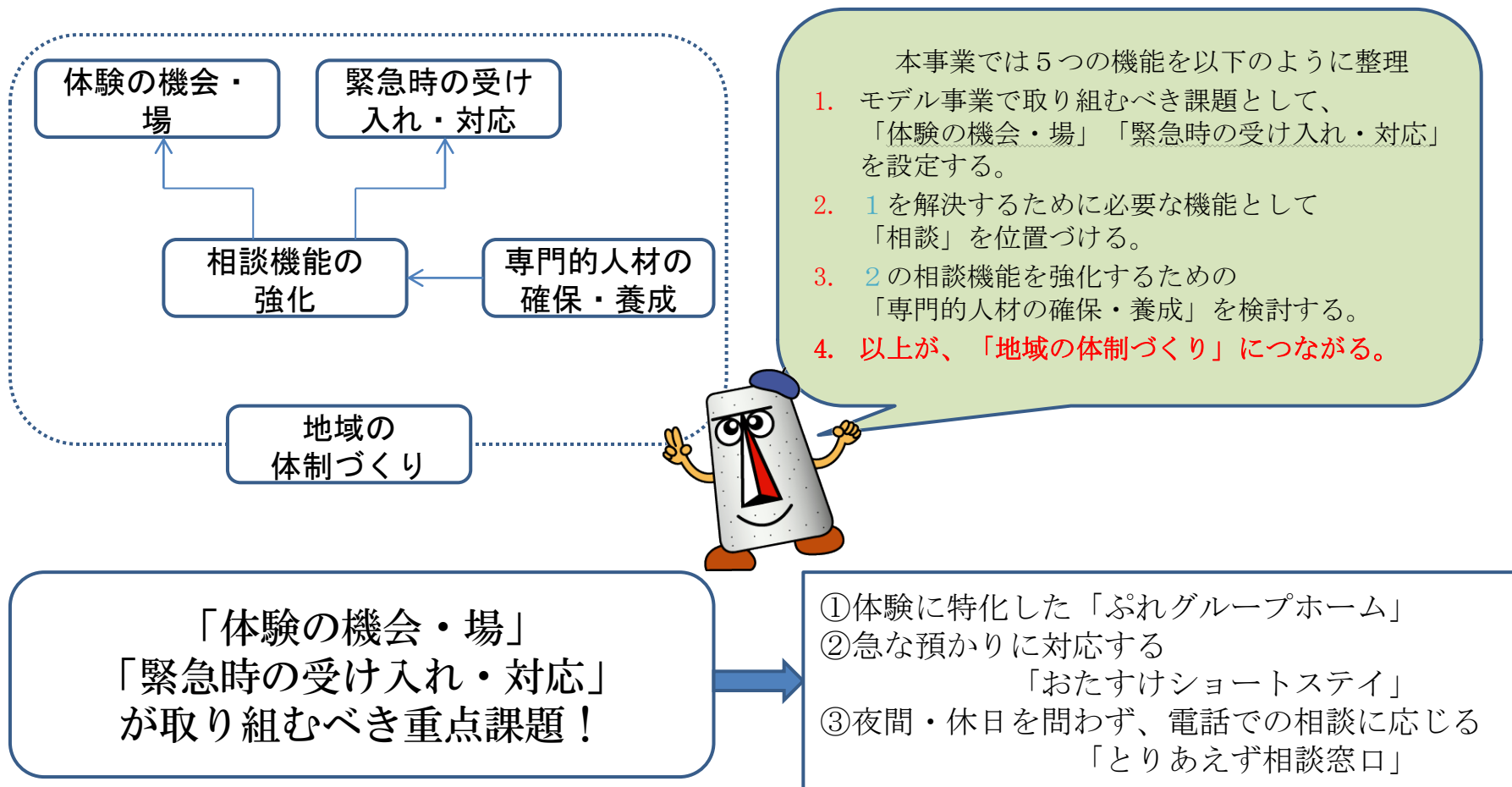
既存の機関の機能を生かしつつ、そこから漏れるニーズに特化した「拠点」を新たに作るとともに、その拠点も一つの機関として、面的なネットワークを作成する折衷型



事業内容



必要な機能の具体的な実施内容



多機能型グループホーム おたすけ処「ちょこサポ」(仮称)

委員会やヒアリングで明らかになったニーズ

現状の支援体制の隙間



①体験に特化した「ふれグループホーム」

気軽に体験

「親離れ・子離れ」の体験になっても、地域生活移行に向けた体験にはなっていない現状
「グループホームってどんなところだろう」「地域のなかで親と離れて暮らすってどういうことだろう」という漠然とした不安の解消のために設置

②急な預かりに対応する「おたすけショートステイ」

柔軟な対応

「とりあえず一晩を乗り越えたい」というニーズに対応するサービス
★当人や家族が「緊急」と感じている事態であれば、原則として預かる

③夜間・休日を問わず、電話での相談に応じる「とりあえず相談窓口」

振分機能

「駆けつける」必要はないが「とりあえず相談したい」程度のトラブルやハプニングに対応する相談窓口
★専門相談窓口や地域の相談窓口につなぐ等の「振分機能」も担う

専門相談窓口、地域支え合い包括とのネットワーク
(面的整備)の充実も不可欠

分担できる体制

事業実施の結果及び今後の課題・方針（予定）

本事業では、現状を踏まえつつ実際のアンケート調査等の結果を踏まえ、「宇部市にあったらいいな」という仕組みを構想することができた。現在宇部市に必要な（不足している）ニーズが明らかになったことから、意義のある事業であった。

しかし、本事業で構想した拠点づくりが必ずしもそのまま実現することは難しいと考えている。以下に拠点整備を推進する際の具体的な検討課題を挙げる。

1 受け入れ体制上の課題

- (1) 潜在的な利用者への対応の課題
- (2) 障害の重度化・高齢化への対応の課題、障害に関する専門性の課題
- (3) 拠点までの移送の課題
- (4) 「駆けつけてほしい」ニーズへの対応の課題

2 事業運営上の課題

- (1) 財源の問題
- (2) 利用する側の利便性の課題

3 面的整備に関する課題

- (1) 既存のグループホームや短期入所（ショートステイ）の拡充に関する課題
- (2) 既存の専門相談窓口の機能や役割の整理とネットワークの強化に関する課題